

学力調査等の状況

平成31年度の調査では全教科で全国や都の平均を下回る。特に5年算数では都と10.5ポイントの差がある。
 ・国語: 全体的に平均よりも少し低い傾向にあるが、特に言語についての知識理解が低い傾向にある。
 ・社会: 思考判断や資料活用の技能については平均以下だが、知識理解については平均を上回る。
 ・算数: 思考判断や技能について、10ポイント以上平均を下回る。
 ・理科: 4教科の中では都の平均と最も近い。思考判断や技能については平均を下回る。

見えてきた課題

国語 : 基礎言語の習得が十分ではない児童が多い。そのために、話や文章を理解して問題を解くことが難しい。
 社会 : 基礎知識は身に付いているが、知識を関連付けて考えたり、図や表から物事を比べるたりすることは苦手の児童が多い。
 算数 : 図形領域が苦手の児童が6~7割いる。また、基礎知識が身に付いていなかったり、既習事項を関連付けて考えたりすることが苦手の児童が多くいる。
 理科 : 知識を観察や実験に関連付けることが苦手の傾向にある。予想—観察、実験—結果のサイクルを丁寧に積み重ねる必要がある。

授業をデザインする8つの取組について

見通しをもたせる導入	単元ごとに「何を学ぶか」を明確にし、実生活に即した導入にしたり、1時間の学習の流れを提示したりする。
発問の工夫	児童の知的好奇心や理解度を高められるような発問をしたり、UDの基本的な手法である問い返しをしたりすることで児童の思考を深めさせる。
ICT機器の活用	意見の発表や集約をするためにChromebookや教材提示装置を活用したり、プログラミング的思考を養うためにweb教材を活用したりする。

各教科における課題を改善するための指導の重点

	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
国語科	<ul style="list-style-type: none"> ○相手意識や目的意識を明確にさせる。 ○単元のゴールモデルを示し、学習の見通しをもたせる。 ○単元を振り返り、自分の学びや変容を自覚させる。 ○自分の思いや考えを言葉で表現させる。 ○既習事項と関連付けて自分の考えをもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○読み聞かせを行い、多くの読書に慣れ親しませる。読み聞かせで難しい語句を説明しながら語彙力を高めるようにする。 ○教師の発問と児童の発言、テストにおける問いと答えの正対を意識させることで読解力を高める。 ○音読を毎時間行う。文章を文節で言葉をとらえられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各段落の内容を整理するために、内容に合った小見出しを付けるなどの活動を取り入れる。 ○自分の一番伝えたいことが読み手に伝わるような文章を書くために、「はじめ・中・終わり」の構成に沿って文章を書かせる。 ○新出語句の意味を丁寧に解説したり、読み聞かせをしたりする中で語彙を増やしていく。 ○朝学習や家庭学習、小テストを効果的に実施して漢字の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○物語や説明文では、筆者の考えを読み取ることを目標として取り組ませる。 ○読み手に伝わる文章を書くために、「はじめ・中・終わり」の構成を基本とし、調べた事や経験を交えた文章を書かせる。 ○新出語句の意味を自分で調べる活動を取り入り、他教科の中に出てきた言葉の意味を説明したりする中で語彙を増やす。 ○朝学習や家庭学習、小テスト等を効果的に実施して漢字の定着を図る。
社会科	<ul style="list-style-type: none"> ○施設の見学を行う体験的学習や外部人材を活用した学習を積極的に取り入れ、資料や写真を活用したりして、問題解決への意欲を伸ばす工夫を図る。 ○統計、写真などの資料の基本的な見方、読み取りを重点的に指導し、様々な資料を読み取る活動を通して、これらの技能を教科に限らず活用できる力の育成を図る。 	(中学年からスタートに向けて現時点で意識する指導の重点) <ul style="list-style-type: none"> ○公共施設や店などの見学や、そこで働く人々へのインタビューなどを通して、社会的な活動への理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○絵地図から読み取れることと、知識として身に付いていることを比較し、空間的な理解を深める。 ○見学などのまとめをする前に、自分が記事にしたいことを精査することで、どのようなことを学べたかを意識づけさせる。 ○地図記号や方角などを通年で活用することで身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○体験的な学習や外部人材の活用をし、児童の学習意欲の向上につなげる。 ○映像や動画などを活用して、児童の知識の定着につなげる。 ○ノートや新聞にまとめることで、1つ1つの資料や統計の理解を深め、活用できるようにする。また、まとめたものを掲示することで、資料への見方を広げていく。
算数科	<ul style="list-style-type: none"> ○東京ベーシックドリルやプリント等の活用を通して、基礎的・基本的な知識と技能を確実に身に付けさせる。 ○具体物や表、グラフ等を活用して、自ら解決する力・思考力・表現力を向上させる。 ○日常生活と結び付ける具体的活動を行ったり、既習事項を踏まえた学習を行ったりして、数量や図形についての感覚を豊かにさせる。 ○中学年以上は、少人数(習熟度別)クラス編成をして、児童の実態に合わせてクラスごとに指導計画を立てきめ細かな指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○具体物から半具体物、そして数・記号などの指導を徹底し、体験的な活動を取り入れながら理解を深めさせる。 ○たし算・ひき算・かけ算などの計算カードを授業の中で扱いながら徹底した反復練習をおこなう、基礎的・基本的な知識と技能を育てる。 ○文章問題の中で問われていることを理解させ、自分なりに考える時間を多く作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の最後に練習問題に取り組み時間を確保したり、適宜プリントなどを活用したりして、基礎・基本を確実に身に付けさせる。 ○図・式・言葉を使って自分の考えを表す活動を取り入れることで、自力解決のための思考力・表現力を育てる。 ○レディネステストを受けて、自分の希望する進み方・内容のコースを選択できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ベーシックドリルとともに、四則計算中心の計算プリントや正しく演算決定ができるような文章題のプリントを活用し、基礎的な学習内容の定着を図った。 ○学習の習熟度に合わせた、指導計画に基づき、指導計画を立て、授業を行う。 ○グループによっては、前学年の既習事項を掲示物等で振り返り、学習を進め定着を図る。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○科学的な言葉や概念を使用して考えたり説明したりする活動を充実させ、観察実験の過程・結果を的確に表現する能力の育成を図る。 ○基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。(科学的な知識・理解の定着を目指す) 	(中学年からスタートに向けて現時点で意識する指導の重点) <ul style="list-style-type: none"> ○年間を通して動植物を観察することで、季節や時間による変化に気付くようにする。 ○実体験をもとに学習を深めていけるように、四季を通した自然とのふれあいを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○低学年の生活科で培った基礎を元に、興味・関心をもって体験的な実験・観察ができるように授業を計画・展開していく。 ○実験・観察の前に児童同士で自分の予想とそう考えた理由を交流する時間をとるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○事実認識を大切にし、自分の言葉で綴らせることで、子供の理解が深め、定着を図る。 ○五感を通した学習を行うことで、表面上の理解ではなく生活に生かせる理解につなげる。